

継続検討品目群（工法）

提案品目名、品目概要は提案者からの提出資料から抜粋したものです。

平成22年度版

統合品目名	提案品目名	提案品目の概要	比較対象品目名	検討結果	
				分類	理由等
天然材料を用いた消波根固工法	消波自然石塊工法	主材料とした自然石を外側に配置しアンカー取付後、コンクリートを打設する消波工法です。自然石は型枠を兼用しています。品質管理は形状寸法と質量管理になります。	コンクリート消波根固ブロック工法	継続検討EQSC	本品目については、統合品目「天然材料を用いた消波根固工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・生物多様性については、比較対象品目に比べ優れていることを定量的に示す必要がある。 品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ・アンカー筋の腐食性や長期安定性についてモニタリングが必要である。 特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるかどうか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	自然石塊被覆工法	主材料とした自然石を外側に配置しアンカー取付後、コンクリートを打設する被覆工法です。自然石は型枠を兼用しています。品質管理は形状寸法と質量管理になります。	コンクリート消波根固ブロック工法	継続検討EQSC	本品目については、統合品目「天然材料を用いた消波根固工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・生物多様性については、比較対象品目に比べ優れていることを定量的に示す必要がある。 品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ・アンカー筋の腐食性や長期安定性についてモニタリングが必要である。 特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるかどうか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
天然材料を用いた護岸工法	アンカー式空石積工法	「自然石」と「スッパーパーネル付きのアンカー材」を固着した製品（アンカー付自然石）に裏込材を充填しながら積み上げる急勾配護岸工法です。現地自然石を再利用してアンカー付自然石の製作が可能です。品質管理は、製品の形状寸法、自然石とアンカー材の結合部強度となります。	コンクリートブロック積（張）工法	継続検討EQSC	本品目については、統合品目「天然材料を用いた護岸工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・石材の運搬によるCO2排出量の増加が懸念される。 品質確保について不確実性が残ると考えられる。 特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
	自然石固着金網工法	自然石と金網を特殊製法により一体化した製品（自然石固着金網）を河川や池の法面に敷設し覆土を行う緩勾配護岸工法です。治水安全性を確保しながら水辺の生態系向上に寄与が可能です。品質管理は製品の形状寸法と重量管理になります。	コンクリートブロック積（張）工法	継続検討EQSC	本品目については、統合品目「天然材料を用いた護岸工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・コンクリートの使用量削減によるCO2削減量の見通しが不明確。 ・石材の運搬によるCO2排出量の増加が懸念される。 品質確保について不確実性が残ると考えられる。 特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 ・石材採取地点と利用地点の距離などにより、供給に制限が生じることが懸念される。 比較対象品と比べてコストが高いと考えられる。
省資源型表面処理工法	ニッポカーベツト	ニッポカーベツトは舗装施工便覧（社）日本道路協会、平成18年2月）に示されるカーベツトコートに相当し、大型車交通量の比較的小さい道路舗装の延命を目的として、老化した既設路面を加熱アスファルト混合物でリフレッシュする表面処理工法である。また、ニッポカーベツトは従来のチップシールなどの乳剤系表面処理工法に劣らない経済性と、薄層オーバーレイに近い耐久性を兼ね備えている。施工は、乳剤散布装置付アスファルトフィニッシャー「セーフペーバ」を用いて、アスファルト乳剤（PK-4）を散布後、直ちにアスファルト混合物を薄層で敷きならし、ローラで締め固めて仕上げる。 なお、ニッポカーベツトは、路面の性能回復を図る表面処理工法であり、構造強化を目的とするものではない。	薄層オーバーレイ	継続検討EQSC	本品目については、統合品目「省資源型表面処理工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。検討の結果、以下の理由により継続的に検討させていただくこととしました。 期待される環境負荷低減効果が十分か、継続的な検討が必要と考えられる。 ・ライフサイクルを通じたCO2排出量についての確認が必要 ・乳剤系表面処理工法やシール材注入工法との比較検討が必要 品質確保について不確実性が残ると考えられる。 ・耐久性、長期供用性について未確認 ・重交通路線に対する適用性・耐久性が未確認 特定調達品目に指定することにより本品目の普及を図ることができるか、継続的な検討が必要と考えられる。 上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります。